

三重トヨペット

未来につなぐ
活動報告書 2018

CSR Report



人残な三重を未来の子供にちへ



ステキな三重を
未来の子供たちへ





はじめに

これまで、私たちは「ステキな三重を、未来の子どもたちへ」を合言葉に、日頃支えていただいている地域社会、そして愛する三重の未来のためにできる取り組みを続けてまいりました。決して大きな貢献と言えるものではありませんが、今後も弊社が存在する限り、続けていくことをお約束します。

地域の皆様の笑顔が見たい!そんな私たちの取り組みを2016年より“未来につなぐ活動報告書”として発刊させていただいています。ぜひご一読いただければ幸いです。

みんなのえがおを TOYO PET
三重トヨペット株式会社

目次 / INDEX

ページ

はじめに／目次 01・02

トップ・メッセージ(社長:川喜田 久) 03・04

取り組みの歴史 05

当社の取り組み [環境・福祉・安心・文化]

私たちの企業理念 06

[環境] への取り組み 07～10

[福祉] への取り組み 11・12

[安心] への取り組み 13

[文化] への取り組み

[その他] の取り組み 14

環境報告 15

報告ページ 16

三重トヨペット会社概要 17・18

《 表紙の桜 》

この桜は私たちが今から43年前に緑化活動をはじめた記念樹として植えられました。私たちの社会貢献活動のはじめの一步をこの桜とともに踏み出して43年。大きく成長し、毎年見事な花を咲かせてくれたこの桜はその生涯を閉じました。私たちの記憶に残るこの桜とともに私たちは続けます。社会貢献活動を!これからも、ずっと!



CSR REPORT 2018 TOP MESSAGE



三重トヨペット 代表取締役社長

お客さまから「ありがとう」を
いただけるような社徳のある会社を目指して。

川喜田 久

自動車ディーラーの仕事はお客様のカーライフを総合的にサポートさせていただくこと。お客様にとって価値あるクルマをおすすめして、長く快適にお乗りいただくためにアフターケアをする。ひと言で申し上げればそういう仕事です。

そして、お客様にご満足いただけるよう、つねに最新の商品知識を身につけ、整備の技術を磨き、社員全員が日々たゆまぬ努力をしていくことです。しかしそれはある意味、自動車ディーラーとして当然のことだと思います。

私たち三重トヨペットは日頃支えていただいている地域社会、そして愛する三重の未来のためにどのような貢献ができるのか、お役に立てるのか。そこに企業としての価値があると考えています。

環・福・安・文を キーワードに社会貢献を

私たちが社会貢献として主に取り組んでいるテーマは4つあり、社内では「環・福・安・文」として浸透しています。

すなわち環境、福祉、安心・安全、文化です。詳細はそれぞれのページをご覧くださいとて、ここでは取り組みの姿勢、考え方を簡単にお話しさせていただきたいと思います。

環境

自動車は20世紀最大の発明と言われます。移動、輸送、そして運転する楽しさ。実際、これほど世の中に貢献してきた発明品は少ないでしょう。今の時代、自動車がない生活は考えられません。しかし、社会に大きな貢献をすると同時に、負の側面があることは正直に認めなければなりません。

そのひとつが環境問題です。自動車は排気ガス、CO²を排出してきました。私たち自動車に関わる企業は、他の分野の企業以上に環境問題に力を入れる義務があるというのが私たちの姿勢です。



三重トヨペットでは環境に対して様々な活動を行っていますが、42年にわたって続けているのが「ふれあいグリーンキャンペーン」です。スタートは1976年。まだ地球温暖化やエコロジーといった言葉もなかった時代に、CO₂対策として「緑を増やす」ことを始めました。以降、1年も欠かさず三重県各地に苗木を寄贈し、これまで4200本以上の木を育ててきました。現在は寄贈地の方々と一緒に植樹も行い、恒例のイベントとなっています。環境に対する取り組みは長期的な視点が欠かせません。1本の木が育ち、CO₂を吸収するまで何十年もかかります。三重の子どもたちのために、さらにはこれから生まれてくる未来の子どもたちのために、今を生きる大人たちが継続して取り組むことが重要だと考えますので今後も続けていきたいと思っています。

福 祉

三重トヨペットでは、福祉車両の「ウェルキャブ」も販売しています。高齢の方、身体にハンディをお持ちの方のための多機能装備車両です。私たちがお一人おひとりに対して最適な車を選ぶお手伝いができるかが重要と考えています。車両に対する知識はもちろん大切ですが、私たちはそれと同じくらい、ハンディをお持ちの方の気持ちを知ることが大切だと考え、一から学ぶことを始めました。車いすの方はどんな不安をお持ちなのか、杖をお使いの方をどうお助けすればよいのか。2006年から全社で取り組みを始め、現在、146名が介助専門士の資格を取得し、お客様とより深いコミュニケーションを取れるようになりました。店舗内の段差をなくす等の物理的なバリアフリーだけでなく、「心のバリアフリー」をこれからも大切にしています。

安心・安全

自動車には負の側面があると申し上げました。環境以外にもう一つ、それは交通事故です。自動車は使い方を間違えると凶器になります。納車時に安全な取り扱いを充分にご説明することはもちろん、車の安全機能を体感していただくイベントなどを開催しています。中でも大切なのは子どもたちを守ること。ご高齢の方と並んで子どもたちの事故が大きな割合を占めます。三重トヨペットでは、毎年三重県内の子どもたちに交通安全の絵本をお配りしています。小さな頃から交通ルールを覚えて、交通安全を意識してほしいと



の思いからです。この取り組みも1969年より半世紀近く続けている長期的な活動です。また日々の交通問題だけではなく、万一の災害時にも地域に貢献できないかと始めたのが保存水の確保です。2007年から、全18店舗に各100本常備しています。東日本大震災の際は、すぐ全店舗の保存水を集め被災地にお送りしました。

文 化

自動車のディーラーで文化をテーマに社会貢献活動をするのはとても珍しいと思います。目に見えるわかりやすい貢献も大切ですが、地域の皆様の暮らし、人生をより豊かにする、そんな企業があってもいいのではないのでしょうか。いまでも全国のどこかで毎年展覧会が行われる私の祖父である川喜田半泥子の作品を集めた石水博物館のチケットをお客様にお配りしたり、津の街音楽祭の後援、2014年にリニューアルオープンした三重県総合博物館「MieMu」の敷地に落葉広葉樹のコナラを寄贈するなど三重県の文化をより発展させるサポートにも注力しています。

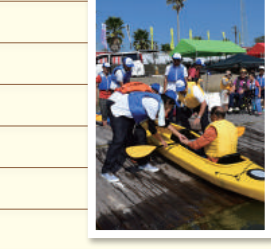
社徳のある会社

企業はただビジネスをして利益を上げればよいというものではありません。地域社会から信頼される存在になること。「あの人は人徳がある」というように企業にも「社徳」があります。三重トヨペットが目指すところは、企業活動すべてを包括して「社徳」のある会社と言われることです。

企業とは「人」です。社員とその家族が幸せでなければ、お客様に気持ちのいいご挨拶もできないでしょう。社員一人ひとりが人として成長し、地域のお役に立ち、お客様に「ありがとう」をいただけるような会社になろう。私はいつも、社員にそう呼びかけています。



三重トヨペット 取り組みの歴史

1956年（昭和31年）	津市下部田に会社創立	
1961年（昭和36年）	本社を津市上井財町（現在地）に移転	
1962年（昭和37年）	本社新社屋 竣工	
1969年（昭和44年）	交通安全絵本 配布開始（以降、毎年参加）	
1976年（昭和51年）	第1回ふれあいグリーンキャンペーンを開催（以降、毎年開催）	
1977年（昭和52年）	日本カモシカセンターに野生生物パトロールカーを寄贈 （以降閉園の2006年まで5年ごとに1台のパトロールカーを寄贈）	
1983年（昭和58年）	QC サークル活動導入	
1992年（平成4年）	トヨタ自動車、地球環境憲章を発表	
1995年（平成7年）	三重県知事より緑化推進の表彰状を受賞	
1996年（平成8年）	本社新社屋 竣工 三重県赤十字センターにカルディナバンを寄贈	
1997年（平成9年）	トヨタ自動車、量産ハイブリッド車プリウスを発表	
2000年（平成12年）	国土緑化推進機構より国土緑化推進功労賞を受賞	
2001年（平成13年）	ISO14001 認証取得（3店舗）（以降毎年定期審査・3年に一度更新審査）	
2003年（平成15年）	2代目プリウス発売	
2004年（平成16年）	ISO14001 全店舗認証取得（本社及び全店舗）（以降毎年定期審査・3年に一度更新審査） 三重県南部集中豪雨被災地に社員ボランティア派遣	
2006年（平成18年）	松阪塚本店 ウェルキャブステーション開設 第1期介助専門士養成講習実施 全店舗に介助専門士を配置 全店舗に車椅子設置	
2007年（平成19年）	鈴鹿神戸店 ウェルキャブステーション開設 第2期介助専門士養成講習実施 海のバリアフリーまつり サポートスタッフとして参加（以降、毎年参加） 全国障がい者ゴルフ大会 サポートスタッフとして参加（以降、毎年参加） 第3期介助専門士養成講習実施 第4期介助専門士養成講習実施 セーフティーキャンペーン開始（以降、全店舗に常時備蓄水を保存）	
2009年（平成21年）	エコキャップ運動 スタート	
2011年（平成23年）	トヨタ原体験プログラム開始（以降、毎年開催） 東日本大震災被災地へ支援金、支援物資（備蓄水・食料・衣料・日用品等）送付 介助専門士フォローアップ研修実施	
2012年（平成24年）	アクアソーシャルフェスへの参加開始（環境保全活動）（以降、毎年開催） AED全店舗 設置	
2013年（平成25年）	使用済みインクカートリッジ回収 開始	
2014年（平成26年）	第1回 ドライビングレッスン 開催	
2015年（平成27年）	第40回 ふれあいグリーンキャンペーン 補修用塗料水性化（亀山BPセンター） 第2回 ドライビングレッスン 開催 津垂水本店ウェルキャブステーション開設	
2016年（平成28年）	熊本地震災害義援金寄付 伊勢志摩サミット応援事業参加	
2017年（平成29年）	介助専門士フォローアップ研修実施 介助専門士養成講習実施	



三重トヨペットの 社会貢献活動を支える4本柱

大地からフクッと
土が盛り上がって、



地域に根ざし、地域に信頼される、社徳のある会社を目指して

1 環境

三重トヨペットは自動車産業に関わる企業の一員として、1976年より毎年続けている緑化活動“ふれあいグリーンキャンペーン”をはじめ、ISO14001の全店舗認証取得、清掃活動、リサイクルの推進など環境活動に積極的に参加しています。

2 福祉

三重トヨペットはどなたにも優しいお店を目指し、2006年より全国自動車ディーラー初となる介助専門士を全店舗に配置。各店舗を巡回して行う“ウェルキャブフェア”では、地域と密着し、福祉バザーを開催しています。

3 安心

三重トヨペットはいざという時に地域の皆さまのお役に立てば…との願いを込めて、県内全店舗に、保存水の備蓄・AEDの設置など万が一に備えています。また、交通安全に対する意識を高める取り組みを行っています。

4 文化

三重トヨペットは文化をテーマに社会貢献を行っています。目に見える分かりやすい取り組みも大切ですが、文化を通して地域の皆さまの暮らし・人生をより豊かにする、そんな企業を目指しています。

企業理念

- ・ 豊かで安全な車社会の発展に貢献する
- ・ お客様に喜びと感動を提供する
- ・ 環境にやさしい企業を目指す
- ・ 地域社会から信頼される健全な企業を目指す
- ・ 人を育て社員と家族の夢と幸せを実現する



[環境]への取り組み



グリーンキャンペーン

私たちは、緑と人、人と人とのふれあいのある豊かな街づくりを目指し、1976年から毎年、三重県への苗木の贈呈と従業員による緑の募金活動「トヨペットふれあいグリーンキャンペーン」を展開しています。昨年で42年目を迎え、県内に植樹した苗木の累計本数は4209本になりました。

三重県の豊かな自然を未来に繋ぐことが私たちの願い。「ステキな三重を、未来の子供たちへ」を合言葉に、今後も緑化活動を継続し、地域の皆さまと一緒に歩んでいけたらと思います。



2000年 国土緑化推進機構より
「緑化特別功労賞」を受賞

第42回 三重トヨペット ふれあいグリーンキャンペーン

【期間：2017年4月～2018年3月】

2017年10月8日(日)に鳥羽市のドルフィン(鳥羽マルシェ前)にて贈呈式を行いました。今年度は三重県主催で行われる県民参加の植樹祭『真珠のように輝く植樹祭』と共催という形で参加しました。

贈呈式後、一般参加の皆さんと一緒にウバメガシを植樹しました。

- 開催日：2017年10月18日(日)
- 主 催：三重県・鳥羽市・三重県緑化推進協会・みえ森サポートセンター
- 共 催：伊勢志摩国立公園協会・三重トヨペット
- 寄贈先：鳥羽市
- 寄贈物：ヤマモモ4本・ウバメガシ60本・河津桜15本の苗木、お客様・従業員による「緑の募金」
- 出席者：三重県副知事 渡邊信一郎殿・鳥羽市市長 中村欣一郎殿・伊勢志摩国立公園協会会長 山本教和殿
ミス日本みどりの女神 野中葵殿・弊社社長 川喜田久・専務 井上喜晴他



「三重トヨペットが存在する限り、私たちは三重県への苗木の寄贈、緑の募金を続けていきます!」



記念植樹

きのこが顔を出し、



ISO14001

私たちの環境理念は「21世紀、環境 にやさしいカーディーラーをめざして環境マネジメントを確立し、継続的な環境への保全、改善に努めること」です。

2001年3月、津垂水本店、津栗真店、リクルマ津垂水本店の3店舗と統括する本社が、環境に配慮した企業に与えられるISO14001を取得。



2004年3月には、ISO マルチサイト(本社及び全店舗)を取得しました。さらに資源として再利用できるよう、ゴミの分別収集も徹底しています。

認証取得に必要な内容は、自動車を取り巻く環境側面のなかで、特に環境への影響の大きい廃オイル、廃LLC(不凍液)、使用済み自動車の処理を法規制に従い的確に処理をしていくというものです。その手順の確立、訓練、教育の徹底において処理能力の向上をめざしたプロセスを重点的に審査を受け、合格しました。取得後は毎年、財団法人日本自動車研究所の監査を受けると共に、3年に1度はISOの規格を保持できているのか、更新審査を受けています。



環境と安全の為に 自動車補修用塗料を水性化 〈自社钣金塗装工場〉

2015年11月、当社の钣金塗装工場(亀山BPセンター)にて補修用塗料の100%水性化を実現しました。水性塗料は周辺環境への影響も少なく、かつ作業者の安全にも繋がることから、導入に至り継続しています。



花いっぱい運動

たくさんのお客様に美しい花をご覧いただきたいという思いを込めて全店舗で「花いっぱい運動」を展開しています。この運動を通して自然とふれあい、潤いのある職場づくりをしています。

各店舗から選出された2名のフラワー委員を中心に、花を苗から育てて、咲かせることをはじめ、毎年6月と10月に苗の植え替えを行っています。





[環境]への取り組み



トヨタソーシャルフェス

トヨタソーシャルフェスはトヨタのハイブリッド車「アクア」のキャンペーンとして2012年に始まり、一般参加型の環境保全活動を全国で展開しています。当社は初回より毎年参加しています。



～みんなでつくる未来の伊勢湾プロジェクト～ 世界に誇れる松名瀬海岸へ

三重県松阪市にある松名瀬海岸での開催は今回で4年目。

伊勢湾最大級の干潟を有し、干潟は海浜植物や水生生物、鳥類などにより豊かな生態系が築かれていることから、環境省が選定する「日本の重要湿地500」に指定されています。

そんな松名瀬干潟の貴重な生態系を守るため、清掃活動と環境学習が行われます。



環境学習を通して私たちは、この三重県にある「松名瀬干潟」のことを知り、回を重ねるごとに貴重な干潟であることへの理解が増してきました。

地域の環境保全活動には、清掃活動により美しくすることに加え、自然を守っていく役割があることを改めて感じました。

地元の方々と一体感。

総務部／渡辺信吾

私はトヨタソーシャルフェスに毎回参加しています。私たち企業からの参加者だけではなく、地元の方や学生さんたちと一緒に清掃活動をさせていただく機会であり、一体感を感じています。そして、活動を終えるとシンプルに爽やかな気持ちになります。私は今後もこの活動に参加していきます。



地域清掃活動

私たちは、地域社会への貢献と環境保全のため、毎週一回、店舗周辺の地域において、清掃活動を行っています。

緑化推進活動であるグリーンキャンペーンを長年続けているうちに環境を意識した社風がごく自然に根付いてきました。

生まれ育ったこの三重の美しい環境を保つため「私たちにできることは何か」そう考えて、店舗周辺の清掃活動を行うことになりました。当社が創立40周年を迎えた1996年から続けてきていますが、近隣の方から感謝のお電話やお葉書をいただくこともあり、私たちも嬉しく思っています。





エコキャップ運動・使用済み インクカートリッジリサイクル

エコキャップ運動

私たちは 2009 年より、エコキャップ運動に参加しています。この取り組みはペットボトルのキャップを分別回収し、再資源化を促進することにより CO² 発生抑制に寄与できると同時にキャップの売却益で世界の子供たちにワクチンを届けるという運動です。お客様、従業員によって集められたエコキャップをリサイクル事業者に送り、リサイクル事業者がキャップの売却益を日本委員会 (JCV) に寄付しています。これまでに削減された CO² の量は 9,076 kg、ポリオワクチンは 1,441 名分、キャップの収集数は 1,206,574 個になりました。(2018.3.31 現在)



使用済みインクカートリッジ

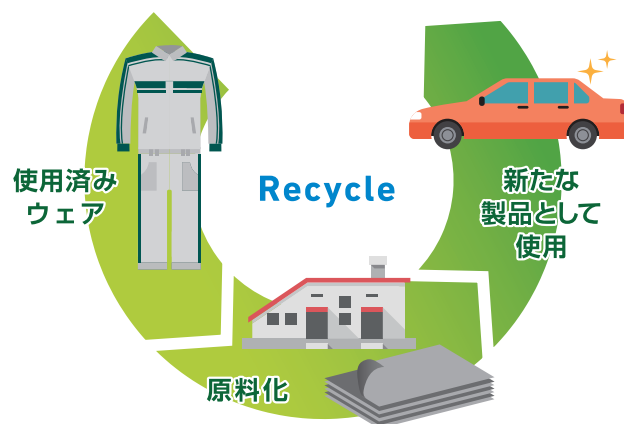
2013 年からは使用済みインクカートリッジの回収も始めました。エコキャップ運動と同様にリサイクル事業者を通して、インクカートリッジ 1 個につき 10 円の売却益が環境団体や福祉団体に寄付されています。



エンジニアウェア リサイクル

資源の循環型社会への対応として、当社で使用後のエンジニアウェアを回収し、リサイクルに繋がっています。

回収したエンジニアウェアは特定指定業者の特殊工場で半毛再生化され、カーペットや自動車内装材などの新たな製品に生まれ変わります。



携帯電話リサイクル

環境を保護することを目的とし、貴重な資源を再利用するためにお客様の不要となった携帯電話機・充電器をブランド、メーカー問わず、リサイクルを行っています。

また、紙資源を有効に再利用していくことを目的に、携帯電話に同梱されている取扱い説明書のリサイクルも行っています。



モバイル・リサイクル・ネットワーク
携帯電話・PHSのリサイクルにご協力を。

社用車のハイブリッド化

私たちは環境を保護することを目的として、社用車には PHV (プラグインハイブリッド車) やプリウス、アクアなどのハイブリッドカーを多く使用しています。



[福祉]への取り組み

介助専門士

介助専門士とは

当社では、「どなたにもやさしいお店」を目指し、2006年から「介助専門士」の取組みを開始しました。

『介助専門士』は介助の専門知識・技術・心得を習得し、高齢の方や障がいのあるお客様とご家族が安心できる介助を提供するための資格です。現在、全店舗に介助専門士が配置されていて、全社で146名が資格を有しています。

また、数年に一度フォローアップ研修の実施も行っています。

新規介助専門士養成講習は2日間の講習で、高齢者疑似体験、車椅子の使い方・移乗訓練、点字、視覚障がい者手引き、手話などを学びます。他に聴講、ロールプレイングなどがあり、最後に検定試験を受けます。



※介助専門士は、NPO法人 日本介助専門員推進協会が認定する資格です。

ウェルキャブステーション

ウェルキャブステーションとはトヨタ自動車の認定を受けた販売店店舗の名称で、専門の知識を備えた“ウェルキャブコンサルタント”が常駐し、お客様のご要望をお聞きして最適なお車をご提案させていただいております。また、いつでもウェルキャブを体感していただけるように展示車を常設しております。

三重トヨペットウェルキャブステーションは県内に鈴鹿神戸店と津垂水本店と松阪塚本店の3店舗ございます。ウェルキャブについてのご相談だけでなく、安心してご来店いただけますよう多目的トイレも備えておりますので、お気軽にお立ち寄りください。

全店舗にて車椅子をご用意しています。



ウェルキャブコンサルタント

鈴鹿神戸店

〒513-0801
鈴鹿市神戸地子町300-1
TEL：059-382-3211



梅溪 光彦 森 通晃

津垂水本店

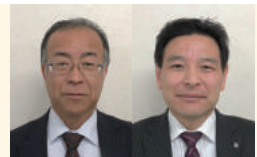
〒514-0806
津市上井財町4番1号
TEL：059-222-7151



中川 斉

松阪塚本店

〒515-0811
松阪市塚本町78-1
TEL：0598-51-2020



小堀 勝美 大崎 功二

※全店舗におもいやり駐車場あります。

やがて双葉になり、



ふれあいウェルキャブフェア

私たちは2012年よりトヨタの福祉車両“ウェルキャブ”を、より多くの方に知っていただくことを目的とし、『ふれあいウェルキャブフェア』を開催しています。

また特定非営利活動法人共同受注窓口みえと連携して、開催店舗周辺の福祉施設の方々の手作り品を販売するバザーも同時開催しています。各店舗を巡回しながら、年に10回ほど実施しています。

ウェルキャブとは

「全ての方に移動する自由を」のコンセプトを基に障がいを持つ方や高齢の方、すべての人の快適でステキな暮らしをサポートすることを目指してトヨタが開発した福祉車両。



※写真：車いす仕様車タイプⅢ（シエンタ）



海のバリアフリーまつり／ザ・チャレンジドゴルフトーナメント

私たちは例年、社会福祉活動の一環として、「海のバリアフリーまつり」と「ザ・チャレンジドゴルフトーナメント」にサポートスタッフとして参加しています。一般社員の他にも、新入社員が心のバリアフリーを学ぶ研修として参加しています。

※心のバリアフリーとは…すべての方に対して心を配ること。

海のバリアフリーまつり

【期間：2017年9月9日（土）10日（日）】

このイベントは小型ヨットやカヤックなどのマリンスポーツを通して、障がい者、健常者がふれあい協力し合えることを目指しています。

- 会場：マリーナ河芸
- 運営：NPO 法人海の達人



ザ・チャレンジドゴルフトーナメント

【期間：2017年11月3日（金・祝）】

この大会は、視覚・聴覚、肢体（上肢・下肢・内部）に障がいのある選手の方々が、全国から集まり、熱戦を繰り広げます。

- 会場：津カントリー倶楽部
- 主催：NPO法人日本ザ・チャレンジドゴルフ協会
- 後援：厚生労働省、文部科学省、日本プロゴルフ協会 他





[安心]への取り組み



飲料水の備蓄(セーフティキャンペーン)

地震などの自然災害が発生した時、真っ先に困るのは『水』。そんないざという時に地域の皆さまのお役に立てれば…との願いを込めて、2007年より、飲料水(ミネラルウォーター1.5Lペットボトル)を県内18店舗100本ずつ合計1800本備蓄しています。

2011年東日本大震災の被災地で、また同年9月台風12号で被害を受けた三重県熊野市で、この備蓄水を役立てていただきました。また同時に“災害対策 BOOK”の配布も行っています。



社用車ドライブレコーダーの設置

私たちは社会の交通安全に対する意識を高めるために、ドライブレコーダーの設置をお勧めしています。

社内においては、社用車及びお客様への代車等への設置、また社員が通勤で使用する車への設置も推奨し、社員全員で交通安全に対する意識を高めています。

子供110番

幼児・児童が安心して登下校できるよう、何かあったときに助けを求めることができる民間協力の拠点「子ども110番の家」の活動に当社も参加しています。私たちはいつでも頼れる場所を目指して活動を続けています。

幼児向け交通安全教材の贈呈

私たちは例年、三重県を通じ、県内の幼稚園・保育所・認定こども園の新入園児を対象に「交通安全の絵本・紙芝居」の贈呈を行っています。子供たちが交通ルールを知るきっかけになり、交通事故防止のお役に立てればと、1969年より県内トヨタ販売店の方々と共に続けてきた取り組みです。



写真：交通安全紙芝居
「こうつうあんぜんかみしばい
ケキシダビトン※」

※「ケキシダビトン」とは、物語の中で使われている呪文のことで、「トビダシキケン」の逆さ言葉です。



(写真：2017.4.7撮影)

AED 設置

万が一の場合に備え、また地域の皆さまのお役に立てるよう全店舗に AED を設置し、使用方法についての訓練も受けています。





[文化]への取り組み



石水博物館 賛助会員

社長川喜田久の祖父である川喜田半泥子(1878-1963)が創設者である石水博物館には、半泥子と関わりがあった美術品や交流した作家たちの作品、半泥子自身の作品などが展示されています。

半泥子の地域振興への意志に共感し、私たちは賛助会員として、当博物館を支援しています。また数に限りはありますが、ご希望のお客様にはチケットをお渡ししお楽しみいただいています。



MieMu 三重県総合博物館 企業パートナーシップ会員

私たちは三重県総合博物館の企業パートナーシップ会員として、三重の多様で豊かな自然と歴史・文化の保全、新たな三重県の文化づくりを応援しています。

また、2014年のリニューアルオープンの際には敷地にコナラの木を寄贈しました。



[その他]の取り組み

職場体験・原体験の受け入れ

職場体験受け入れ

私たちは毎年、本社や県内各店舗にて中高生の職場体験の受け入れを行っています。

受け入れの際にはまずは生徒の皆さんの安全を第一に考え、職場体験の目的である“人との接し方や社会生活における規範を学ぶこと”を念頭に置き受け入れを実施しております。

生徒の皆さんは三重トヨペットでの数日間の職場体験で、働くことの楽しさや厳しさなどを体感し、将来の職業に対する理解を深めます。それと同時に私たちは生徒の皆さんから伝えることの難しさを学ばせていただいています。



トヨタ原体験プログラムへの参加

私たちが子どもの頃に実体験をした記憶は「原体験」として、心に残っていますが、今の子どもたちには、そのような場面は、決して多くはありません。そこで、私たちは「自動車会社として子どもたちにできること」として誰もが知っている「クルマ」を通じて子どもたちに様々な体験をしてもらう「トヨタ原体験プログラム」という活動を行っています。

私たちは2011年より毎年、県内トヨタ販売店の方々とともにナビゲーターとして授業に参加しています。

和(なごみ)プロジェクト

“和”の心を大切にしたい、気持ち穏やかな落ち着いたお店作りをしていくために、女性視点を取り入れ、時にはお客様の力をお借りし、社員全員でお店作り・人作りを考える和プロジェクトを行っております。





環境報告

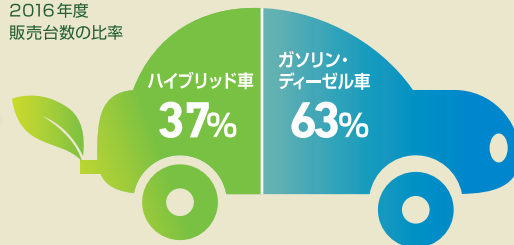
環境保全のためにしている取り組み報告



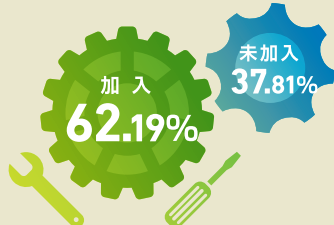
2016年度 ハイブリッド車販売台数 2,380台

新車販売全体の約4割を占めるハイブリッド車の販売。環境に良い低燃費、低排出ガス車の販売推進をこれからも継続していきます。

2016年度
販売台数の比率



2016年度 スマイルパスポート 加入率



大切なお客様のお車のメンテナンス

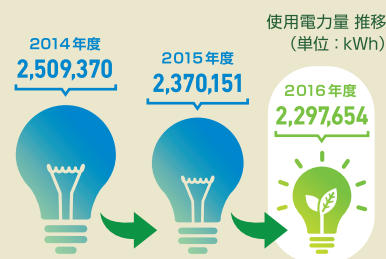
私たち三重トヨペットではお客様のお乗りいただく大切なお車のメンテナンスをサポートする「スマイルパスポート*」を販売させていただいています。2016年度は全販売台数のうち62.19%のご加入をいただき、多くのお客様にお勧めさせて頂く事が出来ました。

※スマイルパスポートとは新車購入から3年間のメンテナンスをバックしたメニューです。



省電力化を考えます

全店舗照明器具のLED化を行ない電力使用量を抑える事が出来ました。また、夏はクールビズを導入、全社員でこまめな節電に心がけています。使用電力量も2016年度は前年比96.94%と前々年に続き成果が見られました。今後も継続して省エネルギー化に努力していきます。



CO² 排出量(電力)

電力使用量を全社照明 LED化、また節電など省エネ対策の成果が「CO²排出量」にて確実に削減されている事が確認できました。また社用車のハイブリット化によるCO²排出量も削減されています。今後も省エネに貢献できるよう取り組んでいきます。



燃料使用量

当社において使用したガソリン、軽油などの燃料を集計しています。社用車、営業車などでの使用が主になりますが、近年省燃費車が増えている為使用量が抑えられている事が目に見えてはっきり分かります。環境車両などをこれからも使用しながら燃料使用量を抑えていきたいと考えます。



産業廃棄物の適正処理を考えています

私たち三重トヨペットではISO14001を全店舗マルチで取得しております。環境保全に対しても社員全員が常に考えながら省資源化、分別、リサイクル推進、又、廃棄物の削減、汚染予防に努めております。「ステキな三重を未来の子供たちへ」を合言葉に今後も継続して環境活動がんばっていきます。





MIE TOYOPET 2017 TOPICS

報 告



サービス技術コンクール

第32回 全国トヨペット店サービス技術コンクール 地区大会

● ボデー・ペイント競技

2017年11月12日 当社亀山BPセンターにて、選抜地区（北陸・長野・東海地区）大会が開催されました。4年に1度開催されるこの大会。鈑金の技術が問われる『ボデー競技』と塗装の技術が問われる『ペイント競技』の2種目があります。

当社からは亀山BPセンターの石田 紀彦選手（ボデー競技）と高井康夫選手（ペイント競技）が代表として出場しました。

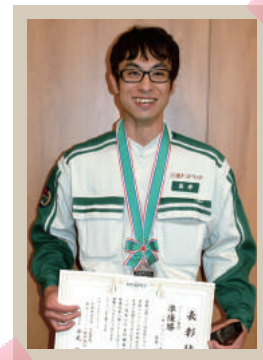


● サービス技術競技

2017年12月10日・11日、トヨタ自動車多治見サービスセンターにてトヨペット店の中部地区（8社）大会が開催されました。2年に1度開催されるこの大会。各社2名の選手が出場し、サービス技術競技はサービスエンジニアの技術力、応対力向上とお客様の期待に応えるための技術を競います。当社からはレクサス四日市の道脇寛也選手と名張黒田店の藤森竜也選手が代表として出場しました。



結果はペイント競技に出場の高井選手が見事準優勝を果たし、全国大会に出場します。（2018年4月開催予定）今後も私たちは大会スローガン『磨いた技術に真心（こころ）をこめて』を胸にお客様のご期待にお応えできるよう更に技術を高めていきます。



事故・故障サポートセンター開設のご案内

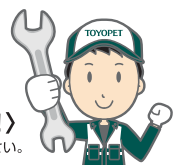


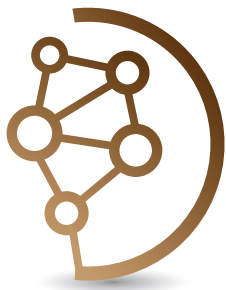
2017年10月より、当社お客様がより安心して頂けるよう、24時間365日対応できる『三重トヨペット 事故・故障サポートセンター』を開設いたしました。
休業日や夜間など、事故や故障でお困りの際にはお電話ください。

☎ 0120-83-7171

＜24時間365日いつでもお客様をサポート！＞

※回線の混み具合など、お待たせする場合がございます。あらかじめご了承ください。
※当社のお客様の個人名・ナンバーが確認出来た場合に限りです。





県内全域に及ぶ、安心のネットワーク

三重トヨペット 会社概要

設 立：昭和31年4月

資 本 金：6,000万円

売 上 高：売上高 256億円
[2017年3月期 実績]

従業員数：442名
(男性 364名・女性 78名)
[2018年3月 現在]

事業内容：トヨペット店が取り扱うトヨタの新車販売
レクサス車の販売
各種 U-Car(中古車)の販売及び買取
自動車の車検・点検・メンテナンス及び钣金・塗装
自動車のカスタマイズ等 各種カー用品の販売
各種保険・クレジット関連の販売
(自動車保険、傷害保険、生命保険、JAF、トヨタTS3カード 他)
情報通信機器の販売(au携帯電話 他)

リニューアル店舗



津垂水本店・本社研修棟

〒514-0806 三重県津市上弁財町4-1

TEL：059-222-7151



そして、その木で育った鳥も成長して
元気に巣立って行きましたとさ！

県内店舗一覧

三重トヨペットは、
お客様のカーライフを
県内全域に及ぶ安心のネットワークで
トータルサポートいたします。



桑名江場店

桑名江場店

至名古屋 至津 至四日市 至鈴鹿 至伊勢

(0594) 21-2411

桑名大山田店

桑名大山田店

至名古屋 至津 至四日市 至鈴鹿 至伊勢

(0594) 27-7855

員弁東員店

員弁東員店

至名古屋 至津 至四日市 至鈴鹿 至伊勢

(0594) 76-6511

四日市羽津店

四日市羽津店

至名古屋 至津 至四日市 至鈴鹿 至伊勢

(059) 331-2261

四日市生桑店

四日市生桑店

至名古屋 至津 至四日市 至鈴鹿 至伊勢

(059) 331-5198

四日市新正店

四日市新正店

至名古屋 至津 至四日市 至鈴鹿 至伊勢

(059) 353-3146

鈴鹿神戸店

鈴鹿神戸店

至名古屋 至津 至四日市 至鈴鹿 至伊勢

(059) 382-3211

亀山インター店

亀山インター店

至名古屋 至津 至四日市 至鈴鹿 至伊勢

(0595) 82-9380

津栗真店

津栗真店

至名古屋 至津 至四日市 至鈴鹿 至伊勢

(059) 231-1313

津垂水本店

津垂水本店

至名古屋 至津 至四日市 至鈴鹿 至伊勢

(059) 222-7151

一志日置店

一志日置店

至名古屋 至津 至四日市 至鈴鹿 至伊勢

(059) 293-5678

上野城北店

上野城北店

至名古屋 至津 至四日市 至鈴鹿 至伊勢

(0595) 21-2225

名張黒田店

名張黒田店

至名古屋 至津 至四日市 至鈴鹿 至伊勢

(0595) 64-2081

松阪塚本店

松阪塚本店

至名古屋 至津 至四日市 至鈴鹿 至伊勢

(0598) 51-2020

伊勢小俣店

伊勢小俣店

至名古屋 至津 至四日市 至鈴鹿 至伊勢

(0596) 22-3171

志摩鵜方店

志摩鵜方店

至名古屋 至津 至四日市 至鈴鹿 至伊勢

(0599) 43-3791

尾鷲店

尾鷲店

至名古屋 至津 至四日市 至鈴鹿 至伊勢

(0597) 22-3711

レクサス四日市

レクサス四日市

至名古屋 至津 至四日市 至鈴鹿 至伊勢

(059) 350-7171

亀山BPセンター

亀山BPセンター

至名古屋 至津 至四日市 至鈴鹿 至伊勢

(0595) 84-5111



三重トヨペット株式会社

本社 / 津市上弁財町4番1号

☎ 059 (227) 7171 (代表)

<http://www.mietoyopet.co.jp>



クルマと、つぎの楽しみを。

TOYOPET

発行：2018年4月
発行部署：CSR推進室

